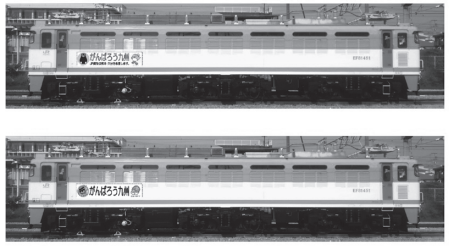
JR貨物

「がんばろう九州」ラッピング機関車を運行

JR貨物（田村修二社長）は今月下旬から、「がんばろう九州」ラッピング機関車を運行する。今年4月に発生した熊本地震の一日も早い復興への願いをこめ、熊本県、大分県、熊本市のPRキャラクターである「くまモン」、「めじろん」、「ひごまる」と、環境に優しい鉄道貨物輸送」に取り組んでいる企業が使用できる「エコレールマーク」のイラストに「がんばろう九州」のメッセージを記したラッピングを機関車に貼り付ける。

運行区間は鹿児島線北九州貨物ターミナル～鹿児島貨物ターミナルと、香椎～福岡貨物ターミナル、日豊線小倉～南延岡、長崎線鳥栖～鍋島。ED76形式交流電気機関車2両およびEF81形式交直流電気機関車2両にラッピングを施し、2年間運行させる予定。■

○ ラッピング機関車イメージ（EF81形式交直流電気機関車）



○ ラッピングデザイン

左：「くまモン（熊本県）」、右：「めじろん（大分県）」

左：「ひごまる（熊本市）」、右：「エコレールマーク」

醍醐倉庫

倉庫を活用したバザール「道々橋の蔵出し市」開催

午前10時のオープン前から200人の行列

醍醐倉庫（本社・東京都大田区、醍醐正明社長）は15日、今年で15回目となる倉庫を活用したバザール「道々橋の蔵出し市」を本社倉庫で開催した。荷主の滞留在庫を倉庫で販売し、地域の人々に還元するイベントで、今回も午前10時のオープン前から200人の行列ができるなど大盛況だった。

15回目となる今年も大盛況

同社では「物流を通して社会に貢献する」という企業理念に掲げ、具体的に〝社会〟として挙げる〝お客様〟〝社員〟〝地域〟の3つへの貢献を目指している。今回のバザールには13店舗が出店し、倉庫の荷さばき場に設営した店舗で商品をリーズナブルな価格で販売した。

「滞留在庫を産廃処分すると廃棄費用がかかるが、バザールで販売できればその費用を抑えられる」（醍醐社長）として、荷主からも好評。年々、出店数が増えており、「年に2回開催してほしい」という要望もあるという。

また、社員がついた餅を配布するなど、「社員も楽しみながら運営している」そう。恒例となった「お楽しみ抽選会」のほか、大田区のご当地B級グルメ「大田汐焼きそば」の販売、地元ゆきがや太鼓の演奏なども行われた。

社員による餅つきも

醍醐倉庫

ネット通販物流の強化に向け自社でＥＣサイトを開設

醍醐倉庫（本社・東京都大田区、醍醐正明社長）ではネット通販物流を強化するため、このほど自社でネットショップのサイトを開設した。「インターネット通販の物流に力を入れていくにあたって、お客様の課題をより理解するためにサイトを立ち上げた」（醍醐社長＝**写真**）もので、ネット通販物流代行サービスとのシナジーが期待できる。

同社では住宅街に隣接する倉庫の立地をいかし、パートタイマーを活用した流通加工やネット通販の物流代行業務に力を入れており、プライバシーマーク（Ｐマーク）も取得している。

自社で製品を仕入れて販売するのは難しいため、古物商の許可を得てネットショップを持たない顧客の商品を代理で販売するほか、顧客の売れ残った商品を買取りし、低価格で販売する。「売れるサイトにするにはまだ時間を要する」ことから、コンサルタントや新たな人材も確保。一般財団法人日本電子商取引事業振興財団（Ｊ―ＦＥＣ）にもメンバー会員として加入し、情報収集を行っている。

醍醐氏は「最終的にはお客様の商品をすべて当社のサイトで販売できる体制を目指す。これからネットショップを立ち上げたいお客様や、自社のサイトで商品が思うように販売できていないお客様に対し、物流やサイト構築も含めて当社がサポートしていきたい」と話す。

岡山スイキュウ

「第15回安全確認コンテスト」で女性2名が優勝

同社で初めてフォークリフト単独の競技会として開催

岡山スイキュウ（本社・岡山市南区、片山順二社長）は15日、岡山県トラック協会自動車運転練習場（岡山市東区）でフォークリフトなどの技能を競う「第15回安全確認コンテスト」を開催した。コンテストではこれまで、トラック競技とフォークリフト競技を行うことが多かったが、リフト作業員のモチベーションアップなどを目的に、今回は初めてフォークリフト種目単独での競技会となった。当日は6営業所から14人が個人競技にエントリーするとともに、営業所選抜のチーム競技も実施し、同僚や上司、さらには荷主企業や選手の家族らも見守る中、日々の業務で培った技術を競い合った。

開会式では岡本卓治会長が挨拶し、「事故原因の多くは安全不確認行動にあり、この競技会も第1回から『ドラコン』ではなく『安全確認コンテスト』としている。選手は日ごろの成果を精一杯発揮するとともに確実な安全確認を徹底し、今日のコンテストや研修で得たことを活かしてほしい」と激励した。

続いて、来賓として訪れたロジスティクス・ネットワーク執行役員品質管理部長の長澤正明氏は「全ての業務で安全を第一に優先するという経営トップの考え方が感じられる。当社も人身事故の3～4割はフォークリフト作業に起因しており、事故ゼロをめざしている。ニチレイロジグループでも今年第1回のフォークリフトコンテストを実施する予定にあり、今日の大会を参考にしたい」と挨拶した。

競技はカウンター部門とリーチ部門に分かれ、学科試験と運転操作競技、点検整備の3種目で得点を競った。学科試験では関係法令や運転・作業に関する基礎知識などを確認し、運転競技ではコースを運転して安全確認方法や基本操作

安全確認や基本操作技術の正確性など競う